

“救急救命士”の仕事に燃えて



石綿 大士

(高校53回) 東京都 葛飾区 在住

平成十三年度卒業生の、石綿大士と申します。

私は弥生ヶ丘高校を卒業してから、東京都内の大学へ進学しました。

現在は、消防官として都民を守る仕事をしています。

私が大学で専攻したのは、スポーツ医科学という分野です。

在学中に救急救命士になるための勉強をして、卒業と同時に国家資格を取得しました。

晴れて東京消防庁に入庁することができた私は、救急隊員として、葛飾区にある本田消防署に勤務しています。

私たち消防隊員の勤務形態は3部交替制です。

朝八時四十分 前日の当番部と交替することから 業務が始まり、翌朝八時半に終了します。

また、救急隊員は消防隊の一員でもあるので、日によっては消防車に乗り、火災時の消火活動も行います。

救急隊は一件出場すると、現場から傷病者を病院へ搬送し、消防署に戻るまでに一時間ほどかかります。

東京都は救急の件数が多いため、一当番 二十四時間で、十件前後出場しています。月に百件近く出場することもあります。

出場すると、傷病者を観察し、病態に合わせた適切な処置と 科目選定を行い、より迅速に病院へと搬送します。

私たちが施す救急救命処置という行為には、心臓マッサージや器具を用いた人工呼吸、除細動(電気ショック)や薬剤投与などがあります。

科目選定とは、傷病者が、病院の何科(内科、外科、脳神経外科、循環器等)で治療を受けるのが最適かを見定めることです。

私たちは、発熱、転倒によるケガ、急病による心肺停止など、実に様々なケースに対応せねばなりません。

車両が大破するような交通事故や、自損事故等、悲惨な現場に出場することもあります。

救急車内で、心肺停止の状態から脈拍や呼吸が戻る場合もありますが、残念ながら、助けられない命もあるのが現実です。

救急救命士の使命は、その名の通り、命を救うことです。

それはもちろん、簡単な仕事ではありません。

しかし、私はやりがいを感じています。

また、より多くの命を救いたい、より人の役に立ちたいと考えています。

私の今後の目標は、レスキュー隊員の資格を取得し、消防救助機動部隊(ハイパーレスキュー)に入隊し、レスキュー隊員の資格を持った救急救命士として 活躍することです。

この仕事をしていると、時に、傷病者の方やそのご家族から、温かいお言葉を頂戴することがあります。

職場では良き同僚、素晴らしい上司に囲まれていて楽しいですし、毎日が充実しています。

私は、非常に恵まれているのだと思います。

そして今自分が生きてここにいるということを、非常に幸福なことだと思うのです。

さて、私が高校を卒業して、もうすぐ10年が経とうとしています。

ソフトボール部に所属していた私は、部活動中心の高校生活を送りました。

朝の練習で一日が始まり、授業を受け、放課後も練習。

三年生になると、放課後の練習を終えてから、塾へ行って帰宅するという、多忙な時期もありました。

しかし私の周りには、いつも部活の仲間や同級生たちがいてくれて、互いに励まし合い、共に頑張ることができました。

私は、友人や家族、先生方と、多くの人たちの支えがあったおかげで、悔いのない生活を謳歌できたのだと思っています。

今でも彼らは、私の支えです。また、高校時代の思い出が、今の私を形成する源泉であります。努力したこと、助けられたこと、辛いことや楽しいことも含め、すべての経験が宝です。

後輩のみなさんには、今の自分がいることに感謝し、今という時間を楽しみ、とにかく後悔のないように過ごしてほしいです。

そして、高校生という貴重な時期に、たくさんの人の考えや、色々な人の成功談や失敗談を見聞きし、様々な世界に触れてみて下さい。

あらゆる出会い、新しいことに気づくという体験は、貴いものであり みなさんの財産になり得るでしょう。

例えば、弥生ヶ丘高校募金を活用し様々な職種の外部講師を招いて、お話をさせていただく機会を作ってはみてはいかがでしょうか。協議してみてください。

最後になりますが、私は弥生ヶ丘高校の卒業生であることに誇りを持っています。また弥生ヶ丘高校で学べて本当によかったと思います。

卒業生は、弥生ヶ丘高校のみなさんを 応援しています。